広島・鴻の巣東遺跡

1　所在地　広島県東広島市西条町大字下見
2　調査期間　一九九六年（平8）五月～八月
3　発掘機関　㈶東広島市教育文化振興事業団
4　調査担当者　永井　康
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　中世末～近代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

東広島市は広島県中央部南側の、標高二〇〇m～三〇〇mの賀茂台地上に位置している。遺跡は西条盆地西南部の平坦面に立地している。発掘調査は下見中央地区土地区画整理事業に伴って行なわれた。

検出した遺構は掘立柱建物・溝・井戸・土坑・石垣・池などである。遺物は、中世末～近代の陶磁器・土師質土器・木器・瓦などが良好な状態で出土している。

（海田市）

木簡が出土した溝は、井戸とつながっており、排水に関わる遺構と考えられる。これらの井戸などから出土した陶磁器は、中世末～近世初頭のもので、当遺跡のなかでも古い段階の遺構である。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「餅中之弐□」　149×21×6　011

遺存状態が良く、原型をとどめており、全面に調整を施している。草書であるが丁寧に書いてあり、土豪又は上層農民など、村落内でも比較的地位の高い人物によるものと考えられる。文字の書風は、中世的な様相を残しており、先の遺物の年代観とも大きく違わない。性格としては、目録のようなものか付札的なものが考えられる。

なお、木簡の釈文については、広島大学文学部の西別府元日氏にご教示を得た。

9　関係文献

㈶東広島市教育文化振興事業団文化財センター『阿岐のまほろば』七（一九九六年）、『同』一〇（一九九七年）

（立川敏之）